

2017年3月8日

各 位

三井住友ファイナンス&リース株式会社  
株式会社トクヤマ

産業用純水素燃料電池システムのリース取引への取り組みについて

三井住友ファイナンス&リース株式会社（取締役社長：川村 嘉則、以下「SMFL」）は株式会社トクヤマ（代表取締役 社長執行役員：横田 浩、以下「トクヤマ」）向けに産業用純水素燃料電池システムのリースに取り組みます。純水素燃料電池システムは、水素と酸素を利用して、水の電気分解と逆の化学反応によって発電するシステムでCO<sub>2</sub>を排出せず、高効率での発電が可能です。産業用純水素燃料電池システムへのリース方式による導入は日本初のケースになります。

対象設備は東芝燃料電池システム社製固体高分子形燃料電池システム<sup>(注1)</sup>で、100kWの出力を持ち、トクヤマのグループ会社である周南スイミングクラブ（山口県周南市）が運営するスイミングプールに設置されます。この設備の設置により、スイミングクラブのプールの照明やポンプの動力など、施設で使用する電力の大部分を賄うことができ、また、発電過程で生じた温水は、シャワーの水を温めるボイラーの予熱として使用される予定です。運転開始は2017年3月を予定しております。

トクヤマは、環境省が進める「平成27年度 地域連携・低炭素水素技術実証事業」における実証受託の代表事業者となり、自社の苛性ソーダ工場から発生する未利用副生水素<sup>(注2)</sup>を回収し、近隣や周辺地域の純水素型燃料電池システムや燃料電池自動車に供給することなど、地方自治体とも連携のうえ、低炭素な水素サプライチェーンを構築、モデルを確立させる実証事業を実施中です。

この他トクヤマは、高純度な副生水素という特長を活かし、液化水素ステーション向けの水素の供給や、太陽光発電を利用した水電解法による高効率水素製造システムの開発及び貯蔵・利用システムの検討などの実証実験にも数多く取り組んでいます。

SMFLは、水素ステーションや水素貯蔵設備及び水素供給設備など水素関連設備のリースを業界に先駆けて取り組むことで、水素関連設備の普及をサポートしています。

水素は、利用段階において二酸化炭素を排出せず、効率的なエネルギー利用や再エネルギー貯蔵等に活用できるなど地球温暖化対策として重要なエネルギーです。

トクヤマ、SMFLは今後も低炭素な水素サプライチェーンの普及に資するとともに水素活用の推進に貢献してまいります。

- (注1) 固体高分子形燃料電池は、イオン伝導性を有する高分子膜（イオン交換膜）を電解質として用いる燃料電池。低温動作による起動停止がしやすいため、主に自動車用、家庭用（エネファーム）として使用されています。
- (注2) 副生水素は、製鉄所、化学工場等からの副産物として生成される水素です。苛性ソーダの製造プロセスで発生する水素は高純度でコスト面でも優れています。

以上

<お問い合わせ先>

三井住友ファイナンス&リース株式会社

広報IR推進室 五十嵐 TEL 03-5219-6334

株式会社トクヤマ

広報・IRグループ 青木 TEL 0834-34-2002